第２回浦昭二記念賞特別賞を受賞して

芳賀正憲（情報システム学会会員）

物質やエネルギ資源の利用を極限まで進めた２０世紀に対して、２１世紀は情報資源を飛躍的に高度利用していく情報の世紀として幕を開けました。２００４年には、情報概念が生命情報、社会情報、機械情報から成り立つとする基礎情報学が西垣通先生によって提唱され、翌２００５年、世の中の仕組みを情報システムとして考察し、ソリューションを進めていく情報システム学会が、浦昭二先生によって設立されました。

基礎情報学にもとづくと、意外にも情報資源は天然資源であり、物質資源と同じように、mining⇒refining⇒processing⇒assembly のプロセスで活用の高度化を図っていくべきことが分かります。また、浦先生の定義にもとづくと、情報システム学は、情報システム産業の親学問であるだけでなく、多岐にわたる学問分野に広く適用できる再起概念の体系であり、情報システム学を参照基準にして、他の学問分野のレベルアップを図っていくことが可能になるという、驚くべき機能をもった学問であることも明らかになりました。

２００７年６月、メルマガに連載を開始したとき、編集委員の方が「情報システムの本質に迫る」という、学会のミッションステートメントともいうべき、すばらしい表題を掲げて下さいました。

以来今月まで１０年８か月、情報とは、情報システムとは、情報システム学の役割とは何か、identify に努めてきました。そこから見出されたのが、上にも述べたような、驚異的なパワーをもつ新しい情報システム学の姿です。

情報システム学を identify するのは、時間のかかる地味な作業です。今回この活動に浦昭二記念賞特別賞という、この上ない光を与えて頂いたこと、大変ありがたく、今までご指導を頂いた方々、記念賞にご推挙、ご評価を下さった方々に、厚く御礼申し上げます。

２１世紀、ＩＴを超えて、情報システム学には広大なフロンティアが広がっています。若い人たちの活躍で、さらに進化した情報システム学の identity が確立されることを切に望んでいます。